

## 定期報告（ウルグアイ内政・外交：2017年5月）

### 【内政】

#### 1 メーデー記念式典

1日、メーデーを記念して全国労働総同盟（PIT-CNT）による記念式典が開催され、ムヒカ前大統領、センディック副大統領をはじめ与野党の議員が参列した。式典ではPIT-CNT代表団が教育関連予算の引き上げ、男女平等、最低賃金引き上げ等を訴えた。

#### 2 大麻購入の登録開始

2日、薬局で販売される大麻の購入希望者の事前登録が全国65ヶ所の指定郵便局で開始された。登録初日は約540名が訪れ、1週間後の登録数は2300名となった。実際に薬局で大麻の販売が始まるのは7月になる見込みで、指紋認証システムを導入した全国30の薬局で、大麻1グラム当たり1.3米ドルで販売される。転売は禁じられ、自己使用のため1人当たり1ヶ月40グラム（週10グラム）を上限に購入が可能。事前登録と平行して、TV、ラジオ、広告物等を通じた麻薬の危険性及び副作用の注意喚起を行う麻薬使用防止キャンペーンが開始された。

#### 3 退役軍人年金制度改革

24日、政府はバスケス大統領が本年の最重要課題の一つと位置づける退役軍人年金制度改革法案の骨子を与党FAに提出した。同年金制度は年間4億米ドル超の赤字を計上しており、財政負担が増大している。主要な改革点は、退役年齢（38歳から60歳に）の引上げ、最低勤続年数（20年から30年に）引上げ、最高年金額（現在、月約7000米ドル）の引下げ等。軍関係者は同改革に強く反発しており、野党の国民党及びコロラド党も同法案には反対姿勢。一方、独立党及び人民同盟は法案の内容を精査した上で態度を決めるとしている。

#### 4 エルサルバドル難民の受入れ

31日、ニン・ノボア外相は、今年中にウルグアイが、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）により難民認定されたエルサルバドル国籍の5家族を受入れ、更に翌年もう5家族、計50人を定住難民として受入れると明らかにした。同難民は、ウルグアイの地方で農業等により生計を立てると想定され、政府は最初の2年間に限り住宅手当として一家族当たり月に約50米ドルを支給する。同様のスキームで2013年及び2014年にコロンビア国籍難民110人（内90人が現在も国内居住）を受入れた前例がある。一方、ウルグアイは2014年に42名のシリア難民を受入れたものの、同難民が生活窮状を訴えて座り込みを行うなど社会問題化した経緯があり、政府は世論の反発を懸念しエルサルバドル難民受入れ準備を水面下で進めてきた。なお、シリア難民は月額10万円程の生活援助を受けているが、エルサルバドル難民には同様の金銭援助は無い旨明らかにした。

### 【外交】

#### 1 安保理議長国に就任

1日、ウルグアイは今期2度目となる安保理議長国に就任した。議長国在任中の主要な活動として、ウルグアイのイニシアチブでコロンビア和平プロセスの現地視察を行った。また、25日、ニン・ノボア外相は「医療を中心とした紛争下の文民保護」をテーマとした安保理ハイレベル討論で議長を務めた。同外相は、医療機関への攻撃に関する調査の実施及び責任追及の重要性を強

調した。医療機関への攻撃がもたらす甚大な被害について説明する一方、常任理事国5ヶ国が世界武器貿易の75%を占めていると指摘し、軍縮体制の強化及び責任ある国際武器貿易のために武器貿易条約の締結を呼びかけた。ウルグアイは、ACT（説明責任、一貫性、透明性）の加盟国として安保理の作業が誠実に、オープンに、協力的に行われるよう努めた。

## 2 国連ハイチ安定化ミッション（MINUSTAH）終了

5月初旬から3回に分けてハイチに駐留していたウルグアイ軍が撤退し、全250名が帰国した。ウルグアイは、2004年から2017年にかけて計13,000名以上をMINUSTAHへ派遣し、職務中8名が飛行機墜落事故等により命を落とした。メネンデス国防大臣は、ウルグアイがPKOを通じて平和及び人権保護等への貢献を行っている旨述べた。また、現在ウルグアイが1000人以上を派遣する国連コンゴ(民)安定化ミッション（MONUSCO）のマンデートが延長される。一方、国連から打診のあった中央アフリカへのPKO派遣については、ウルグアイの目的と合致しないため不参加を決定したと説明した。

## 3 亜との共同環境プロジェクト

5日、デ・レオン住宅土地整備環境大臣はベルグマン亜環境大臣と会談し、両国の国境沿いを流れるウルグアイ川及びラプラタ川における二国間共同環境プロジェクトに関する覚書に署名した。両国は、同プロジェクトへの資金提供をアンデス協力基金（CAF）に申請し、ウルグアイ川隣接地域における気候変動への適合、またラプラタ川における海洋生物多様性保全に関して協力を行う。気候変動プロジェクトは、技術的作業を経た後、6月15日に亜で開催されるメルコスール環境大臣会合において決定される。

## 4 マッタレッラ伊大統領のウルグアイ訪問

10日～12日、マッタレッラ伊大統領がウルグアイを訪問し、バスケス大統領と会談した。両首脳は、鉄道分野における協力協定及び犯罪人引き渡し条約に署名した。マッタレッラ大統領は、ウルグアイがラテンアメリカで秀でた国であると賞賛し、また、EU・メルコスールFTAを支持すると述べた。マッタレッラ大統領は、本年7月以降に第1回政策協議開催のためバスケス大統領をローマに招待した。同会合では貿易・ビジネス協定、文化・科学交流、奨学金、安保理での協力等が話し合われる予定。ウルグアイには亜と伯に次ぐ中南米最大の伊コミュニティが存在し、当地伊系移民は10万人を越す。伊現職大統領がウルグアイを訪れるのは16年ぶり。

## 5 中国人民政治協商会議副主席のウルグアイ訪問

11日、Wang中国人民政治協商会議副主席（CPPCC）がウルグアイを訪問し、ニン・ノボア外相と会談した。両者は、更なる信頼関係構築のために両国立法府間の交流推進の重要性を強調。また、本年末にウルグアイで開催される第11回中国ラテンアメリカ・カリブ・ビジネス・サミットが貿易及び企業交流促進に寄与すると期待を寄せた。また、同副主席は、両院議長と会談し、ウルグアイが政治的安定性及び確固たる法的秩序を有し、中国にとってラテンアメリカへの入口となり得ると述べ、二国間関係強化における友好議員連盟の重要性を強調した。なお、5月初旬、FA総裁をはじめとするFA所属議員が中国共産党の招待により中国を公式訪問した。2009年にFAと中国共産党間で政党間協力に関する協定が署名されて以来、両政党間の交流が続いている。

## 6 アゲレ農牧水産大臣の中国訪問

14日及び15日、アゲレ農牧水産大臣は北京で開催された「一帯一路」サミットに参加した。

その後、同大臣は全国食肉協会（I N A C）関係者及びウルグアイ輸出業者と共に上海で開催される食品展示会S I A Lに参加した。ウルグアイは大豆生産の78%を中国に輸出しており、同様に木材及びセルロース生産の80%、牛肉54%が中国に輸出され、今後、乳製品及び穀物についても中国への輸出拡大が予想されている。

## 7 南極条約事務局長の選出

22日、北京で開催された南極条約協議国会議において次期事務局長選挙が行われ、現在ウルグアイ南極研究所（I A U）事務局長を務めるアルベルト・ルベラス海佐が選出された。任期は2017年9月1日から2021年8月30日で、ラテンアメリカ出身の同事務局長は今回が初めてとなる。ルベラス海佐は、軍での経歴の大半をI A Uで過ごし、南極に関する高い見識を持ちウルグアイの南極基地継続に貢献してきた。同海佐は、国際協力体制による自由な科学的調査のための枠組みを維持することが強く望まれていると述べた。

## 8 ニン・ノボア外相の北米訪問

23日、ニン・ノボア外相は、カナダ米州委員会が主催する機関投資家向けセミナーに出席し、ウルグアイへの投資誘致を行った。また、同外相は、加資本アグリソマ・サイエンシズとL O Iに署名し、バイオ燃料の原料植物カリナタ（アブラナ科）のウルグアイにおける栽培拡大のための研究・技術協力促進に合意した。24日、同外相は国連本部を訪れ、PKOにおける犠牲者を追悼する国連平和維持要員の国際デー記念式に出席。同日午後、グテーレス事務総長と会談し、国連及びウルグアイの関心事項について意見交換した。同事務総長は、ウルグアイの貢献及び多国間枠組みを尊重するウルグアイの姿勢を評価した。

## 9 バスケス大統領のオーストリア、エジプト、スイス訪問

30日、バスケス大統領は国際原子力機関（I A E A）技術協力プログラムに関する国際会議で演説し、ウルグアイは癌治療、農作物に付着する化学物質の検出、乳製品加工の効率化等の核の平和的利用を推進すると述べた。同大統領は天野之弥 I A E A 事務局長と会談し、北朝鮮による核兵器開発に対する懸念を表した。一方、同行したニン・ノボア外相は29日、国連工業開発機関（U N I D O）国吉浩事務次長と南南及び三角協力促進に関する覚書に署名した。31日、バスケス大統領一行はエジプトを訪問し、同大統領はエルシーシ・エジプト大統領と会談した。バスケス大統領は、エジプト政府がウルグアイ食肉処理会社18社に対し同国への牛肉輸出を認可したと発表し、対エジプト輸出拡大を歓迎した。翌日、同大統領はアブデルアール議長、イスマイル首相、アブルゲイト・アラブ連盟事務局長、イスラム教スンニ派の最高権威機関アズハルの指導者タイプ師と会談。その後、外遊最終地となるスイスに移動した。

### 【要人往来】

#### ○往訪

- 6日～20日、アゲレ農牧水産大臣訪中
- 13日、コッセ工業エネルギー鉱業大臣イスラエル訪問
- 19日、ケチチアン観光大臣訪亜
- 19日～26日、バツソ厚生大臣スイス訪問
- 23日、ニン・ノボア外相訪加
- 24日～25日、ニン・ノボア外相訪米
- 29日～30日、バスケス大統領及びニン・ノボア外相オーストリア訪問
- 31日、バスケス大統領、ニン・ノボア外相及びアゲレ農牧水産大臣エジプト訪問

○来訪

- 3日, シェカラビ・スウェーデン行政大臣
- 5日, ベルグマン亜環境大臣
- 10日～12日, マッタレッラ伊大統領及びアルファーノ伊外務・国際協力大臣
- 11日, Wang 中国人民政治協商会議副主席 (CPPCC)
- 12日, ガルシア・ボリビア副大統領
- 12日, ドレイラー独上院議長

(了)